

国際医療リスクマネジメント学会ニュースレター 2013年5月6日

メディカル・リサーチ・ランド(MRL)の建設について

国際医療リスクマネジメント学会会長・理事長・日本医療安全学会理事長  
酒井亮二

日本の医療機器には、胃カメラのような世界一の高性能技術・低コストの製品がたくさんあります。

また遺伝情報などに例を見るように、生命活動の情報科学的研究により、医療機器と医薬品開発は飛躍的に伸びる分野でしょう。

他方、日本のコンピューター科学は世界に冠たる先端の知見と技術を有しています。

しかしながら今日の日本では、医療機器開発にせよ、医薬品開発にせよ、日本では大部分が中小企業集団で展開されています。米国の類似企業1社は日本の数十社分の規模に匹敵し、そのために、米国企業の世界販売網は日本の10倍以上の規模を持っています。

したがって、医療機器開発メーカー、医薬品開発部門、そしてIT企業の3分野を結集する大規模な研究開発ランドが建設できれば、研究の集約化が飛躍的に加速します。また、世界規模の販売網の構築を目指すジェットロのような公的機関もその内部に配置すれば、高性能・低コストの諸製品を世界に拡販できるようになります。

このようなメディカル・リサーチ・ランド(MRL)に大規模研究病院群を配置できれば、製品の有効性と安全性試験もより簡単に行うことができます。大学病院の分院を設置するのもよいでしょう。

MRLの建築は中小企業の資金力では困難で、政府の強い支援によって初めて可能になります。その責任者は、どこかの大学の医学系学長・学部長経験者の方が適任。

MRLは日本医療に対する世界からの期待に応える新しい世界の1つ。そこに海外からの患者をケアする医療情報センター(英・スペイン・仏・独・アラブ・中国語などによる)を配置すれば、より効果的です。

MRLによる新しい世界に期待します。